

インターオプト 2000 参加報告

五鈴精工硝子株式会社

末次 竜也

Report on Inter Opto 2000

Tatsuya Suetsugu

Isuzu Glass Co., Ltd

1. 概 要

インターオプト'2000 が(株)光産業技術復興協会主催により7月11日(火)~14日(金)に、千葉市にある日本コンベンションセンター(幕張メッセ)で開催された。この展示会は日本工業新聞社共催、通産省、日本貿易復興会等の後援、(株)応用物理学会等の協賛により行われている日本で唯一の光製品総合展示会で、前進にあたる1982年に開催されたオプトエレクトロニクスショーから数えて今年で19回目にあたる。

今年のインターオプトは「光 世界を結ぶ」をメインテーマとし、「人、もの、技術、情報を一堂に集め、ビジネスを提供します」をコンセプトに、光通信関連の光部品およびデバイス、測定機器、加工製造機器、光学部品材料、レーザー機器、光センサー機器等を製造販売している国内外の企業が254社出展し開催された。このうち初出展が27社、返り咲きが4社、海外からの出展は100社あった。今年の来場者数は4日間で延べ80282人と発表されており、昨年の77597人と比較して、約3%

増加した。

2. 内 容

インターオプト'2000は、今回も光通信関係の企業の出展が中心で光部品、光源、測定器等を取り扱う企業が多く見られた。レーザー関係では今までのYAGレーザー、半導体レーザーなどの加え今年はUVレーザーを出展している企業が多く見られたのが印象的であった。その他、レンズ、プリズム等を出展している企業も多かった。特に液晶プロジェクター用のインテグレートレンズを出展している企業が去年より増加しており今後販売競争が一段と激しくなるであろうと感じた。また同時期に隣接する会場において光関連の国際会議の開催が通例となっており、今年はOECC2000(FIFTH OPTOELECTRONICS AND COMMUNICATIONS CONFERENCE)が開催され、これらの国際会議に関連した展示があった他、産官学の研究機関や海外の諸機関(SPIE等)も参加していた。

今展示会では同時に各種セミナーが開催され、出展者セミナーではほとんどがレーザー関係特にレーザーによる微細加工のセミナーであり、その他にも測定技術、ソフトウェアのセ

ミナーであった。また主催者による関連セミナーでは日米 JOP ワークショップ、光産業動向セミナー、光産業ベンチャービジネスセミナー、光技術動向セミナーが連日開催され、光技術関係のビジネス等の動向について述べられていた。

3. 終わりに

インターオプトの出展者数が年々増加傾向にあることから、今後インターオプトはアジア最大級の光技術関係の展示会として発展していくことが予想される。しかし SPIE 等の展示会 (PHOTONICS WEST 等) で出展されている

ブルーレーザーがインターオプトでは出展されていない。今後のインターオプトで出展される企業がでてくることを期待したい。

今回のインターオプト'2001 は 2001 年 7 月 16 日 (月) ~ 19 日 (木) の 4 日間、同じく千葉市の日本コンベンションセンター国際展示場で開催される予定であり、同時期に国際会議である CLEO/Pacific Rim 2001 (FOURTH PACIFIC RIM CONFERENCE ON LASERS AND ELECTRO-OPTICS) が開催される予定となっている。今後このインターオプトを発信源としてアジアから世界に向けて光技術がますます発展していくことを切に願うものである。